

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな 経済フラッシュ

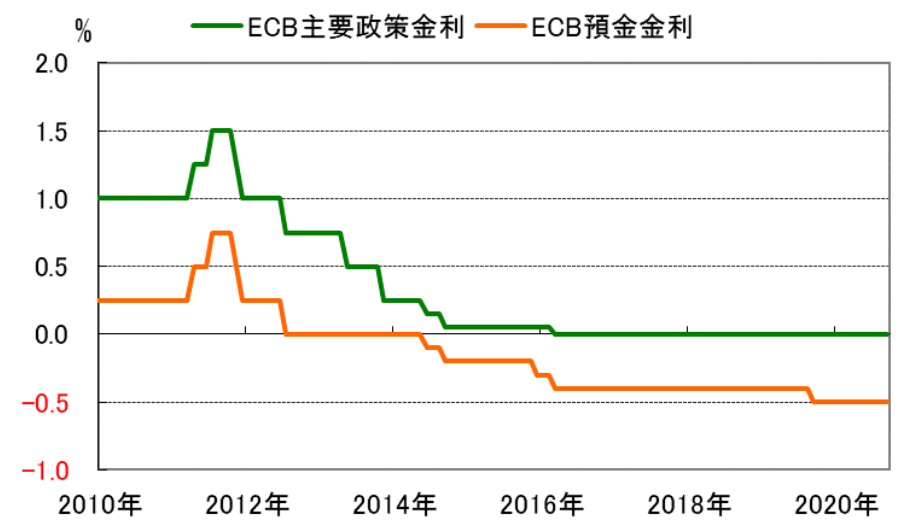
(ECB <欧州中央銀行> 理事会)

〇概況

- ◆ 今回の理事会は、金融政策の据え置きを決定
- ◆ 景気見通しは、6月時点の見通しと比べ、20年は上方修正、21年及び22年は小幅に下方修正。物価見通しは、21年のみ上方修正された。
- ◆ ラガルド総裁の会見では、足元のユーロ高の物価への影響を注視するとしたが、為替水準を目標としないとした。

- ✓ 9月10日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では、**中銀預金金利は▲0.50%、主要リファイナンス金利は0.00%、中銀貸出金利は0.25%**で据え置き、**パンデミック緊急資産購入プログラム(PEPP)の規模も維持**した。フォワードガイダンス（将来の金融政策方針）についても据え置かれた。
- ✓ **景気・物価見通しは6月時点から小幅に修正**された。景気見通しは、足元でコロナパンデミックからの強い回復が見られており、20年の見通しは上方修正されたが、21年、22年については小幅な下方修正となった。物価見通しは、21年のみ上昇修正された。
- ✓ ラガルド総裁は理事会後の会見で、**足元のユーロ高による物価への影響について議論は行われており注視する**と言及した。一方、**為替相場は政策の目標ではなく、為替水準に対する目標値を設けることはない**と発言したことで、マーケットではユーロ高牽制が弱いとされ、一時ユーロドルは1.19ドル、ユーロ円は126円半ばまで上昇した。
- ✓ 同総裁はPEPP（パンデミック緊急購入プログラム）について、非常に効果的なツールであると評価したうえで**全額活用される可能性が高い**とした。ただし、市場で期待されていた**規模の拡大については、現時点で議論されていない**と語った。
- ✓ 全般としては、市場で期待されていたほどハト派的な発言は少なかった。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し（9月時点）】

	2020年	2021年	2022年
実質GDP成長率	▲ 8.0	+ 5.0	+ 3.2
6月時点の見通し	▲ 8.7	+ 5.2	+ 3.3
HICP（消費者物価）	+ 0.3	+ 1.0	+ 1.3
6月時点の見通し	+ 0.3	+ 0.8	+ 1.3

前年比、%
【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。